Ⅰ実践

1　研究主題

互いを認め合い、思いやりをもった行動ができる生徒の育成から、人権教育の促進へ

2　主題設定の理由

本校の教育目標は「すこやかに　たくましく」である。この目標を達成するためには、多くの人間と関わり合う学校で、自分自身が誰かに認められることで自信を持てるようになることが重要と考える。生徒一人一人が、自分や他人の行動や考え方を「知ること・知ってもらうこと」で相互理解と自信につながり、心身の成長と健全で安全な学校生活を送ることができると考えた。また「自己理解・他者理解」しようとする意識を養っていくことが、対教師・対生徒で発生する人間関係に起因する問題の防止や解決にも役に立つと考え、本主題を設定した。

3　具体的な実践

(1) ピアサポーター委員会による「絆の木・未来の木・感謝の木」の制作

葉型のメッセージカードに以下の内容について、生徒からメッセージを募集し、大きな木が描かれた模造紙に貼っていく。それを学級単位で廊下に掲示をすることで全校に発信する取り組みを行っている。

「絆の木」: 友人の良いところを記入。(2012 年 11 月実施)

「未来の木」: 将来の夢や希望について記入。(2013 年 1 月実施予定)

「感謝の木」: 1 年間を振り返って、特定の人に感謝の言葉を記入。(2013 年 3 月実施予定)

【絆の木①】

【絆の木②】

(2) 各学級・授業における人権感覚の育成

自分や他人の考えや意見が尊重され、一人一人がその存在を認められ、安心した毎日を過ごせる学級作りに取り組んでいる。例えば、生徒の実態を踏まえながら、学級活動の中で、ディベートなどの「個人の意見に対する意見」をクラスの全員が発言できる機会を多く設け、一人一人の人間性を尊重することにつながるよう意識している。

(3) 1年生による人権作文コンテストへの参加

作文を書かせる目的や意図、人権の必要性等を指導した上で、人権について自分で考えることや、それを作文としてまとめる時間を設けることで本校1年生の人権への理解を狙い取り組んだ。

4 成果

「絆の木」の活動では、廊下に掲示された「絆の木」のメッセージを見ながら、その内容を友達に伝え合っている場面や、良い点が書かれている本人に向けて暖かい言葉をかけあっている場面も見られた。気の合う人同士のグループで過ごす場面が多い生徒たちにとって、そうでない生徒の新たな1面に気づくことができた実践だったのではないかと考える。

また1年生の作文のコンテストにおいては、2名が入賞を果たすことができ、そのことが他の生徒の人権に対する考え方を深め、意識を高めるきっかけとなったと感じる。

徐々にではあるが、生徒一人一人の中に、お互いを認め合い、尊重する気持ちが養われている。

Ⅱ 今後の課題

人権感覚は、ある特定の活動の中だけではなく、学校で行われる教育活動全体を通して培われるものという認識を、教師・生徒の中でより一層高めていくことが重要である。そのために、本校では教員に対する人権研修会の機会の増加や、定期的な人権啓発活動を行い、本校だからできる、本校ならではの人権教育を展開していかなければならない。

これまでの活動で培ってきた事柄や反省点も踏まえながら、これからの活動・制作について、より良いものができあがるように創意工夫を取り入れていく。そして、校内だけの活動にとどまらず、地域や家庭の方々とも情報を共有できる活動にも取り組んでいく必要性があると考えられる。

その結果として、生徒一人一人が、人権への関心や理解について、より深く・より広いものとしてとらえることができるよう、学校と地域が協力し合いながら、働きかけていきたい。